

平和が大好き、憲法9条が大好き

生協労連・憲法闘争ニュース

2009年8月7日

第23号

生協労連

電話 03(3408)0067

qyg03057@nifty.com

秋葉広島市長

「力を合わせ核兵器廃絶を」

ヒロシマに原子爆弾が投下されてから 64 年。核兵器廃絶への期待とうねりの中、平和祈念式典が開催された。



秋葉忠利広島市長は、「どんな言葉を使っても言い尽くせない被爆者の苦しみは今でも続いています。64年前の放射線が未だに身体を蝕み、64年前の記憶が昨日のこのように蘇り続けるからです」と述べ、被爆者の悲願を実現するために「2020年までの核兵器廃絶運動の旗手として世界をリードすべきです」と日本政府に明確な役割を要請した。そして、今年4月のオバマ米大統領のプラハでの核兵器廃絶演説への支持を表明し、核兵器廃絶への結集をよびかけた。「力を合わせて2020年までに核兵器廃絶を実現しよう」と世界に呼びかけます。その思いは、世界的に評価が高い日本国憲法に凝縮されています」と。



秋葉市長はさいごに、「We have the power. We have the responsibility. And we are the Obamajority. Together, we can abolish nuclear weapons. Yes, we can.」と英語で、世界に呼びかけた。

つづいて、こども代表の2人が「平和への誓い」を読み上げ、最後に力強く結んだ。「話し合いで争いを解決する、本当の勇気を持つために、核兵器を放棄する、本当の強さを持つために、原爆や戦争という『闇』から目をそむけることなく、しっかり真実を見つめます。そして、世界の人々に、平和への思いを訴え続けることを誓います」。

式典では、ミゲル・デスコト・ブロックマン第63回国連総会議長もあいさつし、核兵器廃絶へ「説得力ある行動をとることを決意」しようと呼びかけた。

原爆ドーム前では、高校生が「核兵器の廃絶をめざす1万人署名」を呼びかけ、多くの市民が署名に協力していた。

来年の5月にはNPT再検討会議が開催さる。国際的な世論と運動で、「核兵器廃絶の明確な約束」を実現させなければとの思いを強くした。

(K)



核兵器廃絶 & 憲法署名を持って、外にしよう！

生協労連 2400 作戦

広島市長の平和宣言(全文)

人類絶滅兵器・原子爆弾が広島市民の上に投下されてから64年、どんな言葉を使っても言い尽くせない被爆者の苦しみは今でも続いています。64年前の放射線が未(いま)だに身体を蝕(むしば)み、64年前の記憶が昨日のこのように蘇(よみがえ)り続けるからです。

幸いなことに、被爆体験の重みは法的にも支えられています。原爆の人体への影響が未だに解明されていない事実を謙虚に受け止めた勇気ある司法判断がその好例です。日本国政府は、「黒い雨降雨地域」や海外の被爆者も含め高齢化した被爆者の実態に即した援護策を充実すると共に、今こそ省庁の壁を取り払い、「こんな思いを他の誰にもさせてはならぬ」という被爆者たちの悲願を実現するため、2020年までの核兵器廃絶運動の旗手として世界をリードすべきです。

今年4月には米国のオバマ大統領がプラハで、「核兵器を使った唯一の国として」、「核兵器のない世界」実現のために努力する「道義的責任」があることを明言しました。核兵器の廃絶は、被爆者のみならず世界の大多数の市民並びに国々の声であり、その声にオバマ大統領が耳を傾けたことは、「廃絶されることにしか意味のない核兵器」の位置付けを確固たるものにしました。

それに応じて私たちには、オバマ大統領を支持し、核兵器廃絶のために活動する責任があります。この点を強調するため、世界の多数派である私たち自身を、「オバマジョリティー」と呼び、力を合わせて2020年までに核兵器の廃絶を実現しようと世界に呼び掛けます。その思いは、世界的評価が益々(ますます)高まる日本国憲法に凝縮されています。

全世界からの加盟都市が3000を超えた平和市長会議では、「2020ビジョン」を具体化した「ヒロシマ・ナガサキ議定書」を、来年のNPT再検討会議で採択して貰(もら)うため全力疾走しています。採択後の筋書は、核実験を強行した北朝鮮等、全(すべ)ての国における核兵器取得・配備の即時停止、核保有国・疑惑国等の首脳の被爆地訪問、国連軍縮特別総会の早期開催、2015年までの核兵

器禁止条約締結を目指す交渉開始、そして、2020年までの全ての核兵器廃絶を想定しています。明日から長崎市で開かれる平和市長会議の総会で、さらに詳細な計画を策定します。

2020年が大切なのは、一人でも多くの被爆者と共に核兵器の廃絶される日を迎えたいからですし、また私たちの世代が核兵器を廃絶しなければ、次の世代への最低限の責任さえ果たしたことはないからです。

核兵器廃絶を視野に入れ積極的な活動を始めたグローバル・ゼロや核不拡散・核軍縮に関する国際委員会等、世界的影響力を持つ人々にも、2020年を目指す輪に加わって頂きたいと願っています。

対人地雷の禁止、グラミン銀行による貧困からの解放、温暖化の防止等、大多数の世界市民の意思を尊重し市民の力で問題を解決する地球規模の民主主義が今、正に発芽しつつあります。その芽を伸ばし、さらに大きな問題を解決するためには、国連の中にこれら市民の声が直接届く仕組みを創(つく)る必要があります。例えば、これまで戦争等の大きな悲劇を体験してきた都市100、そして、人口の多い都市100、計200都市からなる国連の下院を創設し、現在の国連総会を上院とすることも一案です

被爆64周年の平和記念式典に当り、私たちは原爆犠牲者の御霊(みたま)に心から哀悼の誠を捧(ささ)げ、長崎市と共に、また世界の多数派の市民そして国々と共に、核兵器のない世界実現のため渾身(こんしん)の力を振り絞(しぼ)ることをここに誓(ちか)います。

最後に、英語で世界に呼び掛けます。

We have the power. We have the responsibility. And we are the Obamajority. Together, we can abolish nuclear weapons. Yes, we can. (私たちには力があります。私たちには責任があります。そして、私たちはオバマジョリティーです。力を合わせれば核兵器は廃絶できます。絶対にできます。)

2009年(平成21年)8月6日 広島市長 秋葉忠利

核廃絶国際署名「核兵器のない世界を」

27 単組 17803 筆 平和の2つの署名集約

憲法9条署名 (旧署名 + 新署名)

45 単組 96511 筆 (12月末、4月)